

日本留学海外拠点連携推進事業 中間評価所見

採択機関（担当地域）名：筑波大学（南米）

○ 実施委員会による評価を踏まえた所見

1. 全体の進捗状況

ブラジルの他、ペルーにもサテライトオフィスを設置し、スペイン語圏での活動を開始した。当地はコロナ禍の影響が大きかった地域であり、オンラインを活用しての活動が中心であったが、オンラインのメリットをさらに活用した施策の変更／実施が求められるところ。

また、留学生数の令和2年度実績が令和5年度目標を既に超えるなどしており、全体的に目標値の見直しが必要である。

2. 成果指標（※）の進捗状況

コロナ禍の中、ホームページに加え、各種 SNS を利用し、国内・現地の機関や団体と連携し情報共有を図っている。また、インターネットやメディア、そして留学フェアを効果的に活用して情報を発信している一方で、収集された情報の分析、分類結果や有益情報から次の有効施策へアクションにつながる具体的な内容記述も望まれる。

オンラインでの優秀な学生獲得のための活動として有力な現地高校及び大学への働きかけが行われており、拠点非設置国へのアプローチも行われている。

ブラジル及びスペイン語圏の国々において帰国留学生との協力が行われており、同窓生出演の動画の作成、配信が行われているが、本邦各大学が把握する同窓会ネットワークの利用が待たれるところ。

3. 実施体制の構築・活動状況

ペルーへのサテライトオフィス設置がなされ、オンラインを活用しながら、計画に沿った活動がなされている。現地日系関係機関の協力を得てオンライン留学フェアを開催した他、筑波大学の特色を生かした、日本語教育等に独自ツールを活用している。

一方で、帰国後のキャリアパス等については邦人企業等との連携により改善の余地があり、他拠点との連携及び今後の活動計画には工夫の余地がある。

4. 今後の実施方針についての検討状況

南米ではパンデミックがもたらす社会へのインパクトが長引く可能性がある。そのなかで現地学生の動向分析を行い、今後の留学形態のあり方を考えて、対策を検討している。

委託期間終了後の継続的な活動に向けて国内大学ネットワークが構築されている。しかし、日本の他大学との更なる協力、連携及びペルー・リマでの委託期間終了後のオフィスをどうするかについては引き続き検討を要する。

※ 実施計画書における成果指標①「留学に関する情報収集・発信（既存機能の更なる強化）」、成果指標②「優秀な留学生獲得に向けたリクルーティング活動促進」、成果指標③「帰国留学生とのネットワーク構築及び広報・リクルーティング活動における協力深化」